

コウノトリ湿地ネットニュースレター

パタパタ

vol.

31

豊岡市城崎町今津1362
0796-20-8560
toshima8560@iris.eonet.ne.jp
<http://wac-s.net>



2016年3月26日 祥雲寺第一巢塔

1_「野生復帰における長期的管理」について考えてみる

3_コウノトリが日本から渡ってくる意味

5_今年のコウノトリの繁殖状況

6_ハチゴロウの戸島湿地便り・編集後記

「野生復帰における長期的管理」について考えてみる

コウノトリ湿地ネット 代表 佐竹 節夫



■ 「野生復帰」との出会い

私が最初に「野生復帰」という言葉に接したのは、1990年の「種の保存委員会」に初参加したときだったと記憶しています。日本動物園水族館協会の中に同委員会ができたのが1988年。その委員会が神戸の王子動物園で開催されたのです。

その頃は、各地の動物園が将来の方向を真剣に探られていた時期でした。その一つが、絶滅の危機に瀕している種をいかに飼育下で保存していくかでした。ゴリラを上野動物園に集結させて集団飼育されたのもその一環です。その動物本来の生態に近づけながら遺伝子を守っていこうというものです。合言葉は、「外部環境が良くなるまで・・・、200年はしっかりと守っていこう」でした。動物園の人たち、特に若手はみんな燃えていました。熱心で熱い議論に私も大いに触発され、豊岡でのコウノトリ保護の意義を明確にさせてもらいました。

議論の中で出てきたのが、「再導入(reintroduction)」という言葉です。海外のハワイガンやアラビアオリックスなどが、飼育下で保護増殖した後にかつての生息地に再導入された先進事例として紹介されていました。そして(いつものように)会議後の雑談の中で、誰かが「“再導入”は硬いので、一般的には“野生復帰”の方がいい」と言われていた・・・ように思います(あやふやですが)。(※)

その後、種の保存委員会の開催が重ねられるうちに「野生復帰」という言い方が主流となり、コウノトリについては、「全国の飼育園館で200羽にすることを目指そう。半分の100羽は豊岡で」が基本認識となりました。豊岡で「100羽になったら放鳥する」という方向性は、ここから来ています。

■ 国際自然保護連合(IUCN)野生復帰ガイドライン

1994年7月に「第1回コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催することが決まったものの、準備のマニュアルがなにもなかったのが、前年の秋に仲間と一緒に見物がてらヨーロッパを訪問してみました。目的は、アルザス地方でのシュバシコウ保護増殖～野生化～定着の様子を見ること、発表予定者のコーエン・ブローワー、キャサリン・キング両氏に会って事前相談することです。

当時、コウノトリ研究の第一人者であったキャサリンさんとロッテルダム動物園でお話し(もちろん、通訳してもらって)した後、アムステルダムのレストランでコーエンさんを交えて少し突っ込んだ話をしました(ちなみに、二人はご夫婦ですが別姓を名乗っておられました)。その折に、IUCN種の保存委員会のチーフであったコーエンさんからもらったのが、「生きている生物の移殖に関する見解」(1987年IUCN作成)という小冊子です。補充、移入、再導入等に関する基本的な事柄が書かれていました。

帰国した後に、英語の得意な仲間に和訳してもらい、それを王子動物園の村田浩一さん(現日大教授・ズーラシア園長)に監修してもらって、東京動物園協会の機関誌に掲載してもらいました。けれども、国内ではまだ野生復帰になじみが少なく、ほとんど注目されませんでした。その後、1995年、これを土台にIUCNが野生集団の再確立を目的とした再導入のためのガイドラインを正式にまとめられて今日に至っています。

その中の要点を覗いてみましょう。

・再導入は、長期的な資金および行政的なサポートが必要とされる長期的なプロジェクトである。そし

て、最低限必要な長期的管理が求められる

- ・再導入する(した)場所は、長期的に確実に保護されるべきである。
- ・(再導入個体への)適切な介入方法に関する方針の策定(例えば、補助的な給餌、獣医学・園芸学的援助など)

随所に「長期的に個体群を管理」すべきことが述べられています。ガイドラインが発表された頃になると、いろんな海外事例が報告されるようになりましたが、実際、それらの全てが長期、であり、100～200年スパンのプロジェクトであるのがとても印象的でした。そして、ガイドラインの「リリースに関わる動物福祉は、すべての段階を通しての最重要項目である」との記述も、当たり前ながらとても印象的です。

■ コウノトリ野生復帰に当てはめてみると

放鳥10年が過ぎて、個体数は増えてきたものの、豊岡盆地内に留まっている約50羽の内部世界が歪さを増しています。環境収容力を越えていると思われる中で、縄張りへの進入、個体間の闘争、近親婚、人工物による事故死等が頻繁に発生しています。生息地破壊の開発も止まりません。市外への飛翔先での受け皿づくりも不透明です。つまりは、IUCNガイドラインはまだ効力をなしていないというのが実情です。「放鳥した個体は無主物か否か」などの議論はどうでもよろしい。鳥任せではなく、「動物福祉に基づいた長期的な個体群管理」を実行すべきです。

問題の根源は、全体を統括するプロジェクトが組織されていないということでしょう。まず国の機関が動いてほしいのですが、現行法の枠内ではすぐには困難なようです。ならばと、当会は行政枠にとられない市民レベルで横断的なネットワークづくりを本格化したいと考えています。市民力を強くしないと、里の鳥は暮らせないでしょうから。野生復帰が100～200年スパンなら、まだ始まったばかりです。少しずつ、ずっと続けることです。

(※)「再導入」は「人間がしてやる」「管理する」という意味合いが濃くて西洋的(?)であり、「野生復帰」は動物主体のようで「共生」的?





コウノトリが日本から渡ってくる意味

韓国:僧侶・自然生態保全活動家・コウノトリ研究家 度淵(トヨン)



2014年4月、J0051が韓国慶尚南道金海市ファポ川湿地に到着した

よりによってどうして金海市か。最近、金海市は近くの釜山(プサン)と共に人口が56万人になるほど増大した都市である。特に、洛東江(ナクトンガン)周辺はビニールハウスによる農作業が多く、コウノトリが生きるには適していない。J0051が到着したのは洛東江と連結されたファポ川湿地である。最近、浄化事業で湿地環境が良くなった。しかし、ここも、農村工業団地に囲まれており、近くにペンキ工場もあり、コウノトリが生きるには不利な条件だ。

金海で十分休みながら気力を回復したJ0051は、冬を過ごすために慶尚南道河東(ハドン)に移動したが、そこでロシアから越冬のために南下した野生コウノトリらと会った。翌2015年春、野生コウノトリが北上するとJ0051も北上して、その姿が忠清南道浅水湾ノンスプジで確認された。

J0051は、浅水湾(チョンスマン)に集まった8羽の野生コウノトリと共にさらに北上し、京畿道華城湿地で確認された。しかし、野生コウノトリたちが継続して北上すると、J0051は1羽で残って南に飛行し、慶尚南道、牛浦沼湿地で発見された。そして再び金海市ファポ川湿地で発見された。2015年4月12日午後7:00に確認以後、また不明となった。

同月21日、今度は日本の島根県で発見され、その後は豊岡周辺に戻ったので、私は2015年7月20日と9月22日、豊岡を訪問してJ0051に会った。そして2015年12月20日、意外にも韓国の順天湾の湿地で発見された。その後2016年3月31日現在、消息は不明である。



J0092は、2014年2月8日韓国济州島で発見された

济州島で海で採餌活動したり、山間地域にある貯水池間を行き来していた。ここは、過去にも野生コウノトリがきたところだ。2016年3月11日まで観察された。



2015年9月2日、蔚山(ウルサン)の太和江でJ0094が発見された

J0094は、太和江で釜山乙淑島(プサン・ウルスクド)、慶尚南道河東郡、全羅南道順天湾を行き交っていたが、姿を消した。その後、釜山乙淑島(プサン・ウルスクド)湿地で、出身不明のコウノトリと一緒にいる姿が観察されたりもした。J0051が飛行したルートに沿って南海岸から西海岸に移動し北上したものと見られる。



2016年2月8日、J0118が慶尚南道河東(ハドン)蟾津江(ソムジンガン)の下流湿地に到着し、順天湾の湿地で発見された

その後、西海岸に沿って北朝鮮まで上がったが再び南下し、2016年3月31日現在、全羅南道咸平郡湿地で過ごしている。日本から韓国に飛んできたコウノトリが西海岸ルートに沿って北上を試みたのと同様にして、韓国に滞在している。



韓国での放鳥個体は

2015年9月3日に忠清南道礼山郡コウノトリ公園で放鳥されたA30は北上を繰り返した末に北朝鮮まで上がったが、再び礼山郡コウノトリ公園に戻った。また、K0008は日本の沖永良部島まで移動した(直後に死亡)。

■ コウノトリはなぜこんなに遠い距離を移動するのだろうか ■

私はいつもそれが気になる。コウノトリの移動を追跡して明らかになったものがある。舞い降りた場所はすべて、コウノトリの生息に良い環境ということだ。有機栽培地域も含まれる。また、海水が出入りする干潟が好きだった。魚が多く水深が浅いのだ。特に、済州島へ飛んできた J0092 の採餌場所は海辺の養殖場付近だった。これまでコウノトリが海で採餌活動をした例はなかったために、新たな資料になった。

私がコウノトリに関心を持つようになったのは10年前の2004年だ。北朝鮮との国境地域である鉄原に野生コウノトリが1羽飛んできたことを機に、コウノトリを研究した。

韓国で繁殖していたコウノトリは絶滅したが、南地方では夏と秋にコウノトリが観察されていた。冬に南下してそのままその地に留まる個体はおらず、その原因はまだ明らかになっていない。

韓国人にコウノトリは特別な存在だった。しかし、繁殖していたコウノトリが消えた後、関心から遠ざかった。そして日本から飛来したり、韓国で人工増殖したコウノトリが自然界に復帰して、再び国民が関心を持つようになった。日本ほど体系的ではないが、研究者はもちろん鳥類愛好家たちもコウノトリを観察し始めた。さらに、農夫たちもコウノトリを見始めた。日本のように韓国人もコウノトリとツルはとても特別な存在だ。以前のように無分別に密猟をしたり、面白半分で銃を発射する行為もほぼなくなった。

■ 日本から飛んできたコウノトリは、我々に示唆するところが大きい ■

第一は、生態環境に対する関心を増幅させ、コウノトリが生きられる環境がどんな所か知ようになった。そして何よりも重要なことは、コウノトリを通じた日本との交流が挙げられる。今も自然生態保存運動家らは日本を訪れており、自然を通じて共感を形成しながら交流している。

私も、コウノトリが縁になって豊岡に4回も行ってきた。豊岡の人たち、豊岡のコウノトリ、豊岡の環境を体と頭で感じて学んだ。このことを見ても、鳥一羽がどれほど偉大かわかるのではないか。コウノトリは偉大だ。人間が自然をどう管理し、人間は其中でどうしなければならないかということを教えるからだ。



韓国各地を訪れたコウノトリたちの様子 撮影 度淵(トヨン)氏



今年のクワノトリの繁殖状況

クワノトリ湿地ネット会員 宮村さち子



放鳥から今年で 11 年目を迎える。野外で繁殖し育った個体が多数を占めるようになってきた。野外育ちのクワノトリたちが主人公となる時期がやってきたようだ。

今年も豊岡市内の各巣塔では、それぞれにペアが抱卵し、孵化の時期を迎えている。すでに祥雲寺第一巣塔では3月20日にヒナ2羽が孵り、ヒナの姿を見ることができるようになった。それを追いかけて、次々と孵化して行くだろう。

今年の繁殖は、3月31日現在、戸島、赤石、野上、福田、祥雲寺、庄境、山本、伊豆、袴狭の9巣塔で産卵が確認されている。百合地、永留巣塔はまだ確認されていない。

このうち、庄境、袴狭は新規のペアである。祥雲寺はこれまで一度も営巣したことのない、第一巣塔に昨年の庄境ペアが営巣した。野外で始めて巣立ちをした百合地ペアは、0275♂が嘴にケガをし、収容された。百合地巣塔には昨年の河谷ペアが入っている。まだ、産卵は確認されていない。この



百合地ペアと河谷ペアの間には、百合地巣塔をめぐる、激しい争いが繰り広げられた模様である。嘴のケガもその抗争の過程で負ったものかもしれない。

各巣塔をめぐる、今年新たな展開を見せたものを紹介する。

庄境巣塔 (J0055♀J0476♂) このペアのオスは伊佐放鳥拠点から2013年にソフトリリースされた個体である。昨年この巣塔で営巣したペアが祥雲寺第一巣塔へ移動、そのあとの空になった巣塔を利用することになった。

祥雲寺第一巣塔 (J0012♀J0021♂) この巣塔は郷公園の建物の真正面にあり、J0001、J0002がソフトリリースで巣立った場所でもある。これまで野外のクワノトリの営巣場所として利用されたことはなかった。西公開ケージのすぐ横で、たくさんの人が通る場所であり、ここで営巣したことに少し驚きを感じている。

袴狭巣塔 (J0428♀J0500♂) 袴狭巣塔はここ数年、J0428♀J0363♀のメスメスペアが産卵、抱卵を繰り返してきたところである。今年は J0500♂の出現により、様相が一変した。J0428♀が新たにやってきた J0500♂とペアとなった。今年の抱卵はヒナの孵化が大いに期待できそうである。ペアとなることが出来なかった J0363 は弱い個体なのだろう。放鳥時から見守ってきた者としてはメスペアの解消が喜ばしいと感じると同時に、J0363 が哀れにも思える。

百合地巣塔 (J0016♀J0025♂) このペアは昨年の河谷ペアである。百合地巣塔と河谷電柱巣塔の間は500メートル強しか離れていない。一昨年の百合地、昨年の河谷のヒナは巣立ち後間もなく、双方ともに死亡した。互いのペアから攻撃を受けた結果と想像される。ここ数か月間はお互いを意識したにらみ合いの状態が続いていた。繁殖期となり、決定的な闘争に至ったと考えられる。旧百合地ペアは、放鳥後10年を経て、オスは16歳、メスは18歳を迎えている。野外の繁殖で生まれた若いペアとの戦いに負けたのは、新旧交代の時期が来たことを暗示しているようだ。

闘争で負傷した J0275 は10日間ほど郷公園の西公開ケージで採餌、休息をとっていた。下嘴が大きく欠け、その後もだんだん欠けた部分が大きくなり命にかかわると思われた。これまで、何羽ものクワノトリが負傷し、手をこまねいているうちに死亡するという経過をたどっていった。今回収容、治療がなされたのは市民のクワノトリに対する愛情と、関心を反映したものと思う。クワノトリは人の近くで生きる鳥である。これからも事故に会うことは避けられない。また新旧交代の闘争も続いていくと思う。野生復帰という事業を先頭で担ってきたクワノトリたちの余生は、平穏なものでなければならないと思う。



ハチゴロウの戸島湿地便り (1月～3月編) 戸島湿地管理棟 森 薫



■戸島ペアは

今年で9年連続の繁殖で、例年通り2月に入ってから交尾を繰り返し、3月2日に2個の卵を確認。その後、最終的に3個の卵を確認しました。4月2日にはJ0294が吐き戻しをしたので、巣塔近くの山に登り1羽の孵化を確認しました。

今年は安定しているようで、巣は例年になくしっかりと造られ、抱卵も雌雄交代でしっかりとしています。



■今年も戸島湿地には他所のコウノトリが飛来しています。



3月16日 戸島湿地に降りた
J0046 と J0053

これまでと違い飛来個体が性成熟していないためか、戸島ペアは威嚇することも少なく、巣塔に接近されても静観しているように見えます。3月4日にはJ0102♀、16日にはJ0046♂とJ0053♀の2羽が淡水域に、13日にはJ0087♀が巣塔の下や汽水湿地に降りていました。今年は大丈夫でも、このまま多くの独身個体が豊岡に留まり続け、繁殖年齢になるとまた昨年のように襲撃してくるのでは？と思えてなりません。実際に、他の巣塔でも同様なことが起こっています。

豊岡では、過密状態になったことの弊害が問題視されていますが、その大元は毎日同じ時間に繰り返される西公開ケージの給餌にも一因があるように思います。西公開ケージは、仲間もいて餌もあり、豊岡のコウノトリの拠り所となっていますが、簡単に餌を採れる場所を覚えてしまうと、豊岡を離れられなくなってしまう傾向があるのではないかと思います。

■春一番のボランティア作業は

心豊かな100人会より、3名の女性陣が来てくださり、佐竹代表と山際湿地の造成作業をしてくださいました。「私たちにお手伝いできることはありますか？」と毎年お電話をいただき、3月を迎えます。午前中いっぱい和気藹々と作業をされ、コウノトリや豊岡の自然についてお話がはずみました。



3月4日 百人会の皆さん

■湿地には

3月9日、今年もヘラサギが1羽飛来しました。あいにく、淡水域に新しい水を入れるために水位を下げていましたので、2日間の滞在となりました。今秋には、ヘラサギの飛来時には、淡水域の水位調整をしっかりと、少しでも長い時間滞在してほしいと思っています。

■一般社団法人日本損害保険代理業協会グリーン基金より助成金をいただきました

3月10日管理棟にて、グリーン基金の認定式が行われました。今年度は、一般社団法人兵庫県損害保険代理業協会からも支援金をいただきました。兵庫県損害保険代理業協会からは支援金と共に、毎年CSR活動として湿地作業にも来ていただいています。今年度も、初夏と秋の2回を予定し



ていただき当会にとって、心強い存在で感謝しています。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

3月10日 損保協会の皆様方と



コウノトリ湿地ネット賛助会員名簿(新規入会)



(豊岡市) 池上晃 宮村吉一 (神戸市) 中島美香

(2016年1月1日～3月31日)

ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。



編集後記



夫はパン教室に通い始めて4年。自宅でもせっせとパンを焼き、我が家は幸せな匂いに包まれる。今まで食べようとしなかったグラタンも食べ始め、お昼はピザだけでもいいと言う・・・体験は人の味覚・志向も変えてしまうのだろうか。 (森)

今号からパタパタは少しスリムになりました。諸般の事情があり、今号以降、8～12ページまでに収める予定です。表紙も少し変更しました。お気づきになりましたでしょうか。

しかし、ダイエットは難しいもの、これから努力して内容の充実を図っていきたいと思っています。私のダイエットも今年こそ実現したいものですが・・・。 (宮村)

校了寸前に入ってきたニュースを3つ。

- ・韓国に滞在中の J0051 (ポンスニ) が、4月6日、金海市で確認されました。
- ・徳島県鳴門市で抱卵中の巣は、4月5日、不成功でした。2回目のチャレンジに期待です。
- ・コウノトリの野生定着に取り組む全国・韓国の市民と連携するため、6月25、26日に市民交流会を開催することにしました。詳細はHP等で。 (佐竹)